

報告日 令和 8年 5月 20日 (水)	報告者 吉武惇二
分科会名 古文書を読む会	開催テーマ：源氏物語（雨夜の品定め） 枕草子と紫式部の清少納言批判 藤原道長と末法思想
開催日時 令和 8年 5月 14日 (木) 午前 10:00 ~ 12:00	開催場所 金沢公会堂第2会議室
参加人数 男性8名 女性4名 合計12名 (含む聴講者4名 欠席者2名)	
<p>本日の講義は、(1) 源氏物語（雨夜の品定め）、(2) 枕草子と紫式部の清少納言批判、(3) 藤原道長と末法思想、の3点であった。</p> <p>(1) 源氏物語とは、光源氏という貴公子が天皇の妻である女性と不倫に陥り、子供を産ませ、その子供が天皇になって光源氏自身は准太上天皇になるという物語であること、(2) 「紫式部日記」の中には、紫式部の清少納言に対する厳しい批評と、紫式部の自己反省を記した部分が綴られていること、(3) 藤原道長と紫式部との関係について、二人は男女の関係にあったとする説が、研究者の間では定説となっていること、等が解説された。</p> <p>総じて、この平安時代に登場する女性像について、女性の最も重要な徳と思われる「貞操」の観念が希薄であり、道德の臭みが全く感じられない時代だったと評価することができる。</p>	
<p>次回予定 令和8年6月11日(木) 10:00~12:00</p> <p>場 所：金沢公会堂第1会議室</p> <p>テーマ：(1) 保元の乱と平治の乱 (2) 崇徳天皇と後白河天皇の角逐（崇徳天皇の怨霊に対する皇室の恐怖） (3) 源頼政の昇殿と旗揚げ（「源頼朝」蛭が小島遠流の強運）</p>	